

令和2年度第2回山陽小野田市公立大学法人評価委員会議事要旨

- 1 日 時 令和2年10月24日(土) 9:00~11:05
- 2 場 所 高千帆公民館 2階 講義室
- 3 出席者 委 員 山本委員長、上野委員、江田委員、平野委員
事務局 大谷大学推進室長、大坪大学推進室主査、尼崎主任主事

—開会—

4 議 事

- (1) 令和元年度 業務実績に関する評価委員会の評価(案)について
前回の会議後に提出された各委員の評価を集約し、委員会評価の決定方法に基づき資料4のとおり決定された。
- (2) 各事業年度の業務実績評価実施要領(案)及び業務実績評価(見込評価)実施要領(案)について
委員長より、年度評価及び見込評価の評価基準を明確にする為に評価式の導入が必要であると考えられたことから、各実施要領に資料6の評価式を導入する改訂を行いたい旨の提言があり、承認された。また、昨年度の年度評価における大項目別評価において既に評価式を導入していたが、実施要領の改訂を行っていなかったことから、合わせて改訂を行うこととなった。(資料1、2)
- (3) 令和元年度 業務実績に関する評価報告書(原案1)について
委員長より、資料5の評価報告書(原案1)について、評価式の導入に加え昨年度のものに比べカラーページの大幅な削減を行ったこと(資料9)や、「大項目別評価Ⅰ～Ⅵ」の記載事項中の“特筆すべき事項及び評価できる事項”については、“3. 事業単位・指標単位評価”の各項目中の評定「a」の中から特に良いと思われる項目を選んだこと並びに“今後に期待する事項”については、“3. 事業単位・指標単位評価”の各項目中の評定「c」全て及び評定「b」、また、場合によっては評定「a」の中から記載した方が良いと思われる項目を選んだことについて説明があった。また、評価報告書については、本来であれば評価式について委員会の承認を得た後に作成すべきであったが、新型コロナウイルス感染症の影響等による時間的余裕の無さにより、事後承認の前提で作成を行ったとの説明があり、原案1のとおり承認された。
事務局より、“3. 事業単位・指標単位評価”中の“法人による自己評

価結果“及び“評価委員会による評価結果”欄内のコメントについて、固有名称等の表記がそれぞれで異なっている部分について確認があり、法人による表記に合わせることとなった。

(4) 業務実績（見込）に関する評価書（原案1）について

委員長より、見込評価の評価式については、中期目標期間の前半3年間の実績で評価するという考え方を適用しており、資料3の評価書（原案1）について、この評価式に基づいて大項目別評価及び全体評価を行ったことや、文章については熟慮の結果決定したことについて説明があった。また、令和元年度 業務実績に関する評価報告書と同様に事後承認の前提で作成を行ったとの説明があり、原案1のとおり承認された。

評価書については、令和元年度 業務実績に関する評価報告書と併せ、後日、事務局より確定版として委員全員に配付し最終確認を受け、意見等がなければ法人に示すとともに意見の申立ての機会を設けることとなった。

(5) その他の事項について

・委員会における評価結果に対する法人の意見の申立てについて

委員長より、万一、法人から質問や意見の申立てがあった場合、基本的には委員会の開催が必要と思われるが、予想される質問としては評価値の決定方法に関する事項であり、これに対しては「評価式に基づくものである」という回答しか持ち合わせていない為、委員会開催の必要性は小さいと考えられることから、開催はせず、委員長の責任において回答したい旨の提言があり、ケースバイケースとはなるが委員長に一任するとのことで承認された。

・事務局（大学推進室）の役割について

委員長より、山陽小野田市公立大学法人評価委員会条例（資料8）において、委員長は会務を総理し、委員会の庶務は大学推進室において処理する旨規定されているが、評価報告書等の文章の校正や語句の修正等、庶務の範囲と考えられる作業について、現在、大半を委員長が行っている状況であること、また、複数回に亘る修正等により時間を要し、委員会の開催が遅れることとなったことについて危機感を覚える為改善を望むとの意見があった。委員からも、市の外部機関となる評価委員会に提出される文書や資料等については、まずは大学推進室内で十分に確認を行った上で送付されるべきとの意見があり、大学推進室より改善に努めるとの回答があった。

・議事録（議事要旨）について

議事録について、現在、委員会への確認がないまま公開されている。例え要旨であっても事前に委員会への確認を行うよう、事務局に対し

指示があった。

- ・資料の印刷について

評価報告書等について、原稿やホームページに掲載するデータについては解りやすさの観点からカラーも使用しているが、協議の結果、今後、委員会用に印刷するものについてはモノクロ印刷とすることとなった。

—閉会—